令和８年度入職した常勤医師をご紹介します

脳神経外科部長

奥畑　荘司

栃木県那須烏山市出身
獨協医科大学卒業
獨協医科大学附属病院勤務
東京都立墨東病院勤務
ロックフェラー大学で研究
とちの木病院などで勤務

2026 年 10 月 1 日、城西病院の脳神経外科部長として入職しました。

大学を卒業してすぐに基礎医学の大学院に入学して研究に従事しましたが、卒後は脳外科教授に「臨床に来ないか」と勧められ、脳外科医の道を進むことになったといいます。「神経生理学の研究に進もうと思っていました。大学院で博士号を取得し、すぐに脳外科助手に採用されました。３年目には都立墨東病院救命救急センターで勤務もしました」と振り返ります。

脳外科の現場で臨床を行っている時に、アメリカのロックフェラー大学から神経生理学の研究を行わないかと誘いがあり、アメリカに渡りました。「基礎医学を研究している時の論文が評価されたのだと思います。アメリカでは、ソングバードと言って、小鳥が親鳥の鳴き声を学習する脳のプロセスを究明することにより人間の言語学習のモデルとして研究を行っていました。電気生理学的手法を使った研究で、比較的研究者が少ない分野でした」と振り返ります。ロックフェラー大学で２年間研究。「大学から戻って来いと命令があり、論文を１つ仕上げて帰国しました」といいます。

獨協医大では講師・病棟医長・医局長も務め、脳外科の一般の診療・治療・手術を行うほか、小児脳外科やパーキンソン病の手術も行ったといいます。長く社会保険診療報酬の審査委員を務め、厚生大臣賞を受賞しました。

城西病院には、城西病院開院５年目の 1987 年に夜間当直医として非常勤で勤務していたこともあります。

学生時代には馬術部のキャプテンをつとめ、全国の医学部馬術部の集まる大会で優勝した経験も持ちます。

趣味はオートバイで、３カ月に１度くらい、ソロツーリングに出かけていましたが、今はあまり乗っていないといいます。最近は愛猫（ミューちゃん）を飼い始め、先週（10 月の第２週）お散歩デビューしたといいます。

医師になって「お世話になりました、よくやっていただきました、と感謝されるのがうれしい」と話し、城西病院では「事故のないのはもちろん、患者さんに慕われ、必要とされる人材としてがんばっていきたい」と抱負を語っていました。

©Tasseido group